



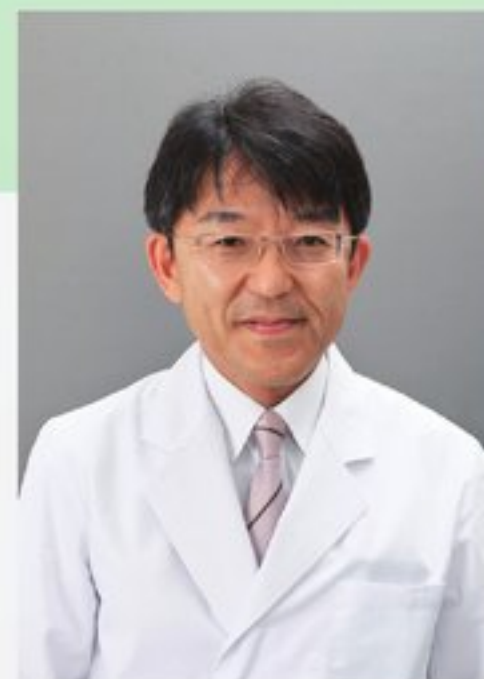
東北大学病院 内科専門研修 プログラム

プログラム統括責任者ご挨拶

内科専門医を目指す先生方は内科プログラムに何を求めるでしょうか？高い専門性、バランスの取れた症例経験、手厚い指導、初期研修からの継続性、研究との両立、いろいろと求めるものが違うと思いますが、できればすべてを備えたプログラムがいいに決まっています。内科専門医を取得するには、希少疾患を含めた十分な症例数の経験が必要ですし、その経験をサポートする十分な数の指導医がすべての領域において必要です。さらに、より高い専門性が求められるこれからの専門医にとって、バックボーンとしての研究歴・博士号の取得はとても重要になっていくでしょう。

東北大学病院内科研修プログラムは、120人を超える指導医が所属し、希少疾患を含め経験できる症例が豊富で、サブスペシャリティの専門研修もシームレスに行えることが可能であり、かつ大学院での研究も視野に入れたプログラムです。すなわち、専門医取得を目指す先生方にとっても、そのあとさらに研究を目指す先生方にとっても、目指す道が確実にそして安心して歩めるプログラムです。

専門医プログラムを決めるこの時期は、自分の将来を考えるととても大切な時期です。自分が目指す専門領域の臨床や研究のキャリアを形成していくためには、どのような環境が望ましいのかよく考えてみてください。東北大学は最良の環境を整えて先生方を待っています。



東北大学病院
内科専門研修
プログラム統括責任者

張替 秀郎

東北大学病院内科専門研修プログラムの特徴



多数の
連携病院

北海道から九州にかけて関連する病院を連携病院として組み込んでおり、東北大学病院プログラムに登録しても、初期研修施設が連携施設であれば、そのまま専門研修を続けることができます。



豊富な症例と
指導医

年間入院患者は約4500名、外来患者は18万5千名となっており、希少疾患を含め経験できる症例が豊富にあります。また、130名を超える指導医が所属しています。



スペシャリスト
一貫教育システム

早期から専門経験を重視したシームレスな「スペシャリスト一貫教育システム」を提案しており、サブスペシャルティの専門研修もシームレスに行うことができます。



学術活動も可能

大学院で学位取得も可能です。



研修医・医学生の
教育に関与

次の世代の育成にも関わります。



地域医療にも貢献

東北の地域医療を各診療科が支えています。これらの連携施設・特別連携施設でも研修します。



宮城県修学資金
貸与生も考慮

修学資金貸与生向けの「地域重点内科コース」があります。指定勤務と専門医取得を最短でサポートします。

東北大学病院内科専門研修の例

いずれのコースでも、基幹施設である東北大学病院で1年以上、連携施設または特別連携施設で1年以上の研修を行います。連携施設・特別連携施設での研修は1ヶ所につき最低3ヶ月以上です。特別連携施設での研修期間は6ヶ月以内とします。

連携施設の選定および時期は、専攻医と診療科(総合内科コースではホスト診療科、地域重点内科コースでは総合地域医療教育支援部および卒後研修センター)で相談して決定します。

1 総合内科コース (希望するサブスペシャルティ領域が未決定の場合)

1年次	2年次		3年次	
東北大学	連携・特別連携	東北大学	連携・特別連携	東北大学

- ◎将来希望するサブスペシャルティのうち一つをホスト診療科とします。
- ◎連携施設から研修を開始することも可能です。

2 サブスペシャルティ内科重点コース (希望するサブスペシャルティ領域が決まっている場合)

①東北大学病院から研修を開始する場合の例

1年次	2年次	3年次
東北大学	連携・特別連携	東北大学

②連携病院から研修を開始する場合の例

1年次	2年次	3年次
連携・特別連携		東北大学

- ◎大学院に入学して専門研修を行うことも可能です。
- ◎②のように連携施設となっている初期研修病院で引き続き専門研修を行い、その後、東北大学で研修を行うことも可能です。

3 地域重点内科コース (地域医療を中心とした内科研修を行う場合・宮城県修学資金貸与生の場合)

1年次	2年次		3年次
東北大学	連携施設A	連携施設B	特別連携 東北大学

- ◎(宮城県修学資金貸与生の場合)連携施設のローテーション期間は1年6ヶ月、特別連携施設のローテーションは6ヶ月とします。修学資金貸与生は宮城県とも協議して修学資金償還の指定勤務とキャリア形成を両立させるように配慮します。

4 内科・サブスペシャルティ内科混合コース (内科専門研修とサブスペシャルティ研修を同時に進行し、修了時に両専門医の受験資格を得る場合)

1年次	2年次	3年次	4年次
東北大学	連携・特別連携	東北大学	

- ◎内科研修とサブスペシャルティ研修を同時に行い、4年間の研修期間で内科専攻医およびサブスペシャルティ専門医の両方の受験資格を得ることを目標とします。

東北大学病院内科専門研修プログラムで研修すると…



図書館など
大学の施設が
利用できます



多くのデータ
ベース等が無料で
利用できます



希少疾患など
多様で豊富な
症例を経験
できます

連携施設一覧

連携施設	北海道	帯広第一病院
	青森県	十和田市立中央病院 八戸市立市民病院
	秋田県	大曲厚生医療センター 平鹿総合病院 本荘第一病院
	岩手県	岩手県立胆沢病院 岩手県立磐井病院 岩手県立中央病院 岩手県立中部病院
	山形県	公立置賜総合病院 日本海総合病院 山形県立新庄病院 山形県立中央病院 山形市立病院済生館
	福島県	医療生協わたり病院 いわき市医療センター 太田西ノ内病院 寿泉堂総合病院 白河厚生総合病院 竹田総合病院 福島労災病院 附属総合南東北病院
	宮城県	石巻市立病院 石巻赤十字病院 大崎市民病院 栗原市立栗原中央病院 気仙沼市立病院 坂総合病院 地域医療機能推進機構(JCHO)仙台病院 仙台医療センター 仙台オープン病院 仙台厚生病院 仙台循環器病センター 仙台市立病院 仙台赤十字病院 仙台徳洲会病院 総合南東北病院 東北医科薬科大学病院 東北医科薬科大学若林病院 東北公済病院 東北労災病院 みやぎ県南中核病院 宮城県立がんセンター 涌谷町国民健康保険病院
	栃木県	国際医療福祉大学病院
	茨城県	水戸医療センター
	埼玉県	自治医科大学附属さいたま医療センター 深谷赤十字病院
	東京都	NTT東日本関東病院
	静岡県	静岡済生会総合病院
	福岡県	久留米大学病院
特別連携施設	宮城県	石巻市立雄勝診療所 石巻市立牡鹿病院 大崎市民病院鹿島台分院 女川町地域医療センター 川崎町国民健康保険川崎病院 気仙沼市立本吉病院 公立刈田総合病院 公立加美病院 公立黒川病院 国立病院機構宮城病院 栗原市立鷺沢診療所 栗原市立栗駒病院 栗原市立若柳病院 蔵王町国民健康保険蔵王病院 塩竈市立病院 登米市立登米市民病院 登米市立豊里病院 登米市立米谷病院 丸森町国民健康保険丸森病院 美里町立南郷病院 南三陸病院

専攻医の声

サブスペシャリティ内科重点コースで循環器内科を専攻し、最初の一年を大学病院の循環器内科で、二年目を市中病院の循環器内科で研修しております。大学病院で研修している間は、重症心不全治療やSHD(構造的疾患)に対するカテーテル治療、デバイス治療、補助循環や心移植など一般の市中病院では経験し難い症例を、その分野のスペシャリストである指導医の先生の下で数多く経験できます。一方、連携施設での研修では、循環器領域はもちろんのこと、その他の内科領域についてもよりcommonな疾患を経験します。SubspecialtyとGeneralityの両立が可能な研修であることが東北大学病院の内科専門研修の最大の魅力であると感じています。ぜひ一緒に研修しましょう！



循環器内科 小丸 航平

私は内科専攻医1年目まで他県で研修を行い、2年目からプログラム変更をして東北大学リウマチ膠原病内科に入局しました。これまで宮城県に縁が無かったため、大学は敷居が高いのでは、プログラム変更は色々苦勞するのでは…と先入観、不安を抱いていました。しかし実際には全て杞憂であり、医局の先生方始め大変親切にして頂き、日々楽しく研修しています。大学では膠原病領域における専門性の高い稀な疾患を、関連病院では関節リウマチなど患者人口の多い疾患をたくさん診療出来る点もプログラムの魅力であると思います。また、宮城県はとても住みやすくて良いところです。ぜひ研修にいらしてください。



リウマチ膠原病内科 高橋 美岐

私は東北大学病院腫瘍内科に所属し、がん患者さんとご家族にとって最良の治療を模索していくやりがいを感じながら働いています。

がん診療の場で発生する様々な関連合併症や化学療法に伴う有害事象のマネジメントを

通して、内科診療に必須の知識が実際の症例ベースで自然と身についていくのを実感でき、内科専門医取得に必要な症例も苦なく集積することが出来ました。

また、臨床試験や基礎研究に触れる時間を取ることも出来ますし、遺伝子パネル検査の結果を元に新規薬剤で治療を行う患者さんの入院を担当するなど、個別化医療の発展を間近で学ぶことができる、贅沢な職場環境であると感じています。

がん診療に興味をお持ちの先生方には、本プログラムを強くお勧め致します。



腫瘍内科 佐々木啓寿

募集案内

- 募集人数 55人
- 選考方法 書類審査および面接試験
- 応募書類 東北大学病院内科専門研修プログラム申込書を郵送もしくはEメールにてお申し込みください。(様式はホームページからダウンロード可能です。)

※募集は日本内科学会及び日本専門医機構によるスケジュールに沿って行います。詳細は、日本内科学会及び東北大学病院卒後研修センターのホームページでご確認ください。

カテーテルや心エコーを用い診断する循環器診療では多くのスキルを学ぶことができます。動脈硬化性疾患・心房細動発症に関連する生活習慣病の管理は内科医としてのgeneralな素養です。経験豊富な指導医のもと、症例の宝庫ともいえる東北大学病院で皆さんと共に働くことができますことを楽しみにしています。

循環器内科 安田 聡



感染症は、臓器にとらわれない各科横断的な診療が必要です。COVID-19をはじめとして感染症は広く伝播することから、個人の問題から社会的な問題に発展します。本プログラムでは、感染管理室等とも協力し、これまで身につけた知識や技術を磨き、診療・感染対策・公衆衛生など幅広い力を持つ医師を育成します。

総合感染症科 徳田 浩一



東北大学病院での研修の強みは、高度の専門性、各科連携で最新の医療の学び、多様性を活かす広い選択肢です。腎・高血圧・内分泌科では、必修の疾患から希少疾患まで、熱い指導医が当科ならではの研修プログラムを用意して皆さんをお待ちしています。

腎・高血圧・内分泌科 宮崎真理子



当科が診る血液疾患は、全身の臓器障害が生じる疾患です。従って、当科の研修では、総合内科医としての実力をつけたいという、サブスペシャリティの専門医を目指すことができます。経験豊富な指導医が皆さんを待っています。

血液内科 張替 秀郎



リウマチ膠原病内科では初期研修で習得した内科の知識と技能を総動員し、全身性疾患の診断と治療を行います。他の内科領域の優れた指導医の先生方にも協力、指導を得ながら幅広く症例を経験できます。全身を診る内科医の育成に努めます。お待ちしております。

リウマチ膠原病内科 藤井 博司



これからは個々の患者さんの病態に応じ、患者さんの全身を診療できる内科診療が必要です。当院内科専門研修プログラムでは、専門科が連携し、専門性と普遍性を兼ね備え思考力のある医師となるべく臨床研修ができます。内科医としての基礎作りの重要な時期に基盤を固め発展につなげることを期待します。

糖尿病代謝科 片桐 秀樹



消化器内視鏡などを用いて自分自身で消化器病を見つけ治療するという姿勢を大切に、関連病院と密に連携した豊富な症例を基に、Common diseaseから難治性疾患まで幅広く診ることができる消化器病総合医の育成を行っております。

消化器内科 正宗 淳



多病を抱えたフレイルな高齢者では、「治す」臓器別診療のみならず、生活機能重視の「支える」診療が求められます。当科では、老年医学のエッセンスを学びつつ、より系統的な知識と技術を習得するための教育プログラムを用意しています。経験豊富な多分野の指導医とともに、高齢者診療のエキスパートを目指しましょう。

加齢・老年病科 武藤 達士



2000年以上の歴史の中、数限りないtry and errorが繰り返されて漢方薬は形成された。今や欧米諸国がこぞって学びたがる“漢方の真髄”を学ぶのは今、ここしかない！ 国内でも有数の漢方専門医、指導医が在籍する当科で漢方を学び、一緒に科学し、伝統を継承しよう！

漢方内科 石井 正



東北大学病院の内科は内科の全ての領域が揃っています。その診療水準は世界レベルで、抜群の効率と深さで内科専門医を取得できます。内科全般の診療能力を上げながら、各科専門医の研鑽が可能です。東北大学病院の内科でより水準が高い医師を目指しましょう。

心療内科 福土 審



内科研修では数多くの症例に接することが重要です。呼吸器内科は喘息やCOPD、肺癌、肺炎といった主要疾患はもとより希少疾患も研修が可能です。サブスペ研修においてもスタッフの質・量ともに充実しています。皆様のご参加をお待ちしています。

呼吸器内科 杉浦 久敏



東北大学病院内科専門研修プログラムは、東北大学が誇る内科教員陣と関連病院が連携し、幅広い症例経験を通じて、高度な専門性と豊かな人間性を身につけた内科医を養成します。ここから、未来型医療を創生する次世代の内科医が羽ばたくことを期待しています。

腫瘍内科 石岡 千加史



東北大学病院内科専門研修プログラムは、豊富な症例をベースに、神経内科の基礎から応用まで幅広い臨床力を系統的に養うことが出来ます。関連病院との連携も含め、サブスペシャリティ研修を見据えた柔軟な研修が可能です。皆さんと共に働ける日を楽しみにしています。

脳神経内科 青木 正志



東北大学病院は国公立大学で最初にホスピスを開設した緩和ケアにも先進的な病院です。患者さん・ご家族のさまざまな辛さを和らげるスキルは、全ての医療に通ずるものであり、皆さんの将来において確実に役立ちます。ご希望に沿って柔軟に対応しますので、気軽にご相談ください(宮城県が誇る在宅緩和ケアを学ぶことも可能です)。

緩和医療科 井上 彰

